# こだま

福岡小児歯科集談会会報

第 42 号
発　行　令和6年3月15日
発行者　会長　二木　昌人
福岡市中央区薬院4-1-26-2F
ふたつき子ども歯科
TEL:092-523-7560
E-mail:fc-dental@san.bbiq.jp


## 巻　頭　言

## 継続は力なり


一般社団法人小倉南歯科医院　　平野　洋子


今年で歯科医師として働き始めてからちょうど40年、九州大学小児歯科に５年、その後北九州市立合療育センターに10年、そして北九州市小倉南区にある今の歯科医院でもずっと小児歯科専門医として勤務し、25年目となりました。若い頃、この集談会の会員でもある某先輩から、「開業した頃に診ていた患者さんが、自分の子供を診察に連れてきてくれた」という話を聞き、私もそうなるまで歯科医師を続けたい、と思っていましたが、最近、同じように、かつての患者さんが、1歳半健診等で自分のお子さんを連れてきてくれるようになりました。まだ数は少ないですが、どのお子さんもカリエスフリーで、お母さんとお話ししても、かつて伝えたシュガーコントロールの重要性が、心に残っていることを感じます。その気持ちに応え、お子さんも将来は健全な永久歯列に！と意気込むのですが、長いこと子供達を診ていると、必ずぶち当たる「壁」があり、そこを打破するのが長年の課題となっています。

集談会の皆様が多く開業しておられる福岡市とは事情が違うかもしれませんが、北九州市では、中学１年生になって体育会系の部活に入ると、別の星の住人になったかのように生活が一変します。土曜日も含めて毎日部活の練習があり、「歯医者に行くから休む」など論外。この数年は、北九州市立中学については、週１回休みとする、と言う取り決めがなされていますが、それも外部コーチの都合などで直前に変更されたりして、リコールの予約は二転三転しそのまま中断。そして中３で部活引退後に、学校歯科検診の用紙と共に来院する時には、最後に診た時は未萌出だった７番の裂溝や、上顎前歯部の隣接面に、露髄しそうな勢いのう蝕をお土産に・・という「中１の壁」。小学校卒業時にはカリエスフリーだった口腔内が残念なことにならないよう、口腔管理継続の重要性を懇々と説くことで、近年は少し部活中学生のリコール率も上がってきたような気はしていますが、自分の所でなくても、「歯科受診を継続」してくれれば良いので、各中学校に歯科診療室を常設し、学校検診でう蝕の判定が出た生徒は部活より治療優先、などという夢のようなことが実現しないかな、とも思うこの頃です。

# 会長挨拶

福岡小児歯科集談会　　会長　二木　昌人

ずいぶん長く小児歯科を中心にやっていますが、かつての、う蝕治療中心の時代から予防が主流になり、さらに成長期の口腔領域の健康を包括的に考える現在と近未来だと感じます。

成人歯科分野でも、治療から予防、そして健康増進にシフトしつつあると思いますし、患者さん側の意識も変わってきています。

20世紀は、小児ではう蝕治療が主流だった故に、治療学的な専門性があったように思いますが、最近では小児歯科メインの開業形態は減少しているようです。

最近の大学での教育事情は分かりませんが、歯学生が小児歯科を面白いと思えるような教育を望みたいものです。

かつてのように専門医として開業すると言うよりも、小児歯科ができる一般歯科医が増えることで小児歯科の裾野が広がり、結果として多くの患者さんをカバー出来ると言うことになります。矯正歯科や口腔外科でも同様かと思います。

私個人としては、う蝕治療の時代がほぼ終わったからこそ、小児歯科の包括性に興味が尽きないところです。

小児歯科に関わってきた私たち先輩は、大学や開業医に関わらず、魅力や楽しさを後輩世代に伝えていきたいものです。

## 令和５年度　福岡小児歯科集談会　総会

**日　時：令和5年4月19日(水) 19時15分～**
**場　所：福岡県歯科医師会館**

会長挨拶の後、議長選出が行われ、以下の議事について報告及び説明がなされた。

**（議事）**

**＊令和４年度事業報告**（令和4年4月～令和5年3月）　二木会長

令和4年　4月　総会（書面会議）
8月　治療困難症例の病院医院への紹介に関する実態調査アンケート発送・回収
12月　大学病院小児歯科における患者受け入れに関するアンケート発送、回収
令和5年　3月　会報「こだま41号」発行

**＊令和４年度会計報告**　安藤先生（会計監査：勝俣先生）

**＊令和５年度事業計画**（二木会長）

令和5年　4月　総会および講演会（歯科医師対象）
安永 敦 先生：アライナー矯正について
7月　講演会（歯科医師&スタッフ対象）
大野 秀夫 先生：口腔機能発達不全症について
11月および/または令和6年2月　講演会（内容未定）
令和6年　3月　会報「こだま42号」発行

**＊令和５年度予算**（安藤先生）

以上の議案は、すべて出席者の承認を得られ、議決された。

# 総　会　後　講　演　会

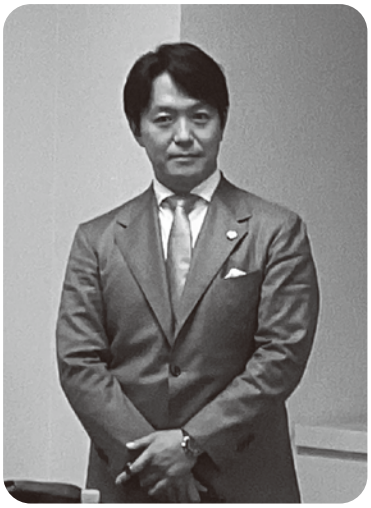
日　時：令和５年4月19日（水）

場　所：福岡県歯科医師会館
　　４階　第３会議室

参加者：16名

演　題
　アライナー矯正歯科治療の考え方
　　ー知っておいてほしいことー

講　師
　安永矯正歯科医院　福岡　院長
　　安永　敦　先生



最近、患者さんからマウスピース矯正治療の要望があったり、また「マウスピース矯正治療のトラブル」などがマスコミなどで取り上げられたりして問題になっていることがあるようです。また集談会のアンケートの中でもアライナー矯正治療について話を聞きたいとの要望がありましたので、安永矯正歯科医院の安永敦先生に、アライナー矯正の歴史、特徴、診断法、取り組み方などを症例を交えながら分かりやすく解説して頂きました。

診断時に最も重要なこととして、プロファイルの評価、歯列弓と歯幅の不調和の問題、配列する歯槽骨の形態や状態を把握することであり、治療の際はアライナー矯正のバイオメカニズムの特性を理解することが大切だとおしゃっていました。

取り組む時の姿勢としては、アライナー矯正のメリットを正しく理解し、自院の潜在的患者から適応症例をピックアップし、正確な診断を怠らないことを強調しておられました。無理をせず、頼れる矯正歯科医との連携も大切であるということを再認識し、多くのことを学ぶことができました。

「歯並びが変われば口元がかわり、口元が変われば表情が変わり、表情が変われば心が変わる。」という言葉を大切にしていらっしゃるということがとても心に残りました。

あんどう歯科小児歯科　　安藤　匡子

# 歯科医師・スタッフ対象講演会

日　時：令和５年7月5日（水）

場　所：福岡県歯科医師会館
　　４階　第４会議室

参加者：27名

演　題
　子どものお口の機能支援
　　ー小児口腔機能発達不全症の対応ー

講　師
　おおの小児矯正歯科顧問　下関市
　　大野　秀夫　先生
　おおの小児矯正歯科
　　大野　康子　先生

小児口腔機能発達不全症の治療が保険適応となり注目されていますが、おおの小児矯正歯科では、長期に渡り「子どものお口の機能支援」という位置付けで取り組まれておられ、今回お話をして頂くようお願い致しました。

まずは、定型児における顎口腔系の機能発達不全について診断する上で配慮すべき点について説明されました。本来その子が持っている力や持ち味を生かして更に発達させる「ハビリテーション」について理解すること。各発達段階で達成しておかなければならない課題すなわち「発達課題」を把握すること。環境に左右されやすいことを注視すること。隣接器官の異常に左右されやすいこと。そして、顎口腔系の形態と機能の問題を考慮することなしでは診断できないことを述べられました。

実際に治療計画を立案するにあたって重要視していらっしゃることとして、お口の機能支援は生活支援であるので、現在の忙しい子供たちの社会状況を十分考慮する必要があることを強調されていました。具体的には、本当は何もしない方が望ましく、大切なことは媒体を使って啓発する。また支援するならば、シンプルなこと、つまり日常生活の中で取り入れ易い対応で解決するような方法であれば、親子ともストレスが少ないこと。更に、顎口腔系には体の中で一番硬い歯があるので、良い医療を目指すなら機能支援のみでなく、形態に対応するが必要であることを挙げられていました。

大野康子先生は、症例をあげて実際の取り組みを、分かりやすく説明して下さいました。長期・継続的にお口の管理をしていくためのオリジナル冊子や動画や絵本などたくさんの媒体を作成されておられ、個人にあったプランを立案され医療ケアを行っておられる様子を紹介して下さいました。

お口の機能支援は、日常生活からみると、ちゃんと噛めて、味わえて、食べて、呼吸して、話せて、笑えるなどの幸せな生活を支えること、つまり生活支援であることを忘れてはならないことを、改めて強く認識することができました。

あんどう歯科小児歯科　　安藤　匡子

# 講　演　会

日　時：令和５年12月13日（水）

場　所：福岡県歯科医師会館
　　４階　第４会議室

参加者：31名

演　題
　こどもまんなかの
　　病一診連携に必要なことを考える

講　師
　福岡歯科大学　成長発達歯科講座
　成育小児歯科学分野　教授
　　岡　暁子　先生

集談会の方から、病診連携をキーワードに、大学病院小児歯科での患者さんの受け入れ状況を講演いただくようリクエストしました。

それに答える形で、福岡歯科大学病院小児歯科での現状を、多くの面から網羅して説明頂きました。

大学の特色でもあるかと思いますが、病院内での他の専門科との連携が良好で、障害のある患者さんの全身麻酔下での歯科治療、そして外傷や構音障害の患者さんに迅速に対応されているようです。

もちろん、う蝕治療や予防、咬合誘導処置など小児歯科の専門性が高い患者さんなども開業医からの紹介で受け入れていて、最近はその数が増加しているとの統計も示されました。

患者さんを中心に置くと、大学は少ない通院で紹介内容に対する回答を出すという役割がありますし、開業医はかかりつけとして適時に長期間フォロー出来ると言う役割があります。

この両輪がうまく機能して、高レベルの知識や技術とケアが必要な患者さんに対して、より良い歯科医療を提供できるということになります。

今回の講義で説明いただいたことで、さらにスムーズな連携ができると思いました。

このような連携情報を、大学側からさらに広く開業医に発信していただくと、何よりも患者さん、そして開業医と大学病院にとっても多いに役立つと感じました。

また、共同編集された最新刊も紹介され、岡教授の小児歯科のスタンスを分かりやすく説明した内容が網羅されています。小児歯科に関わる全ての世代の歯科医師が、現代の小児歯科を学べる良書です。

ふたつき子ども歯科　二木　昌人

# 講　演　会

日　時：令和６年1月10日（水）

場　所：福岡県歯科医師会館
　　４階　第４会議室

参加者：14名

演　題
　乳幼児・小児における齲蝕予防と管理、
　またアメリカでの最近の話題

講　師
　インディアナ大学歯学部　准教授
　　安藤　昌俊　先生

安藤先生はアメリカ、インディアナ大学に所属されていますが、今回は帰省のタイミングで講演をお願いしました。

丁度、先生のカリオロジーがテーマの著書が発刊されていてタイムリーでした。

著書ではライフステージに分けて解説されていましたが、今回は、乳幼児小児でう蝕発生への影響が大きい、細菌要因と食事要因に絞って講演されました。

いままでの知識を再確認できつつ、若干の最新情報も学べました。

著書のタイトルにもありますが、エビデンスに裏付けされたコンテンツなので、患者さん指導で、自信を持って話せそうです。

印象に残った内容は、細菌要因で言えば、虫歯菌感染は母子間の垂直感染のみではなく、兄弟や保育所での水平感染もあると分かってきているとのこと。

また食事要因では、やはり、糖分が多く酸性度の高い（pH が低い）飲食を、頻繁にだらだら行うのが一番問題ということでした。

最近の話題としては、アメリカではいわゆる Digital Dentistry が進化中とのことで、これは日本でも同様です。口腔内スキャナーや３Dプリンターの実用化で、修復物やマウスピース矯正、そしてその元となる印象模型がデジタルデータとして保存や共有ができるわけです。今回のメインテーマではありませんでしたが、治療学のなかでは大きな変化が起こりつつあることを感じました。

ふたつき子ども歯科　　二木　昌人

# 編　集　後　記

先日歯科医師会の先生数人と、食べ放題の焼き肉店に行きました。大学に在籍中、この類の店には一度行ったことがありましたが、今回が2度目でした。今多くの飲食店で利用されているようにipadで注文し、注文品によっては無人のワゴンが、頼んだお客さんのテーブルに運んでくるというシステムでした。

昨今、歯科業界も歯科衛生士をはじめスタッフの確保に頭を悩ませています。私の診療所では終業後の掃除にルンバを使っていますが、処置内容別に希望する材料道具が無人で運ばれてくる時代もそう遠くはないかもと思いました。（私が知らないだけで、現実化されているかもしれませんが。）

廣田歯科医院　　廣田　和子